

まこと新聞

発行者
高島まこと
後援会長
明石 直大
亀山市辺法寺町
205
86-4503



古賀 誠氏 講演会

皆様、こんにちは 高島まこと後援会です。

3月14日（土）辺法寺営農集会所にて、元自由民主党幹事長の古賀 誠氏をお迎えし、高島 まこと後援会主催に依る講演会を開催しました。当日会場の椅子が、足らなくなるほど多くの皆様がお越し頂きました。



講演内容は、古賀氏の生い立ち、同氏と高島との関係、地域活性化向けのインフラ対策、集团的自衛権等々幅広く、且つ解りやすく、熱く熱く語って頂きました。

会を開催するにあたり、地元辺法寺町 川戸自治会長始め、六〇（ろくまる）会の皆様、会場の整備や駐車場案内を快く引き受けて頂きまして、改めてこの場をお借り致しまして、御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて今回のまこと新聞22号は、3月度定例議会一般質問を中心にご報告したいと思っております。質問は、2項目させて頂きました。

～1. 文化行政について

～2. 教育行政について

を詳しくお伝えしたいと思います。

文化行政について

高島：この亀山市には、峯城、新所城、鹿伏兔城という3つのお城の跡がありまして、今回取り上げさせていただくのは峯城に関してですが、峯城とは安楽川と八島川の合流点に位置する処に有り、天正11年、1583年にその中で有り、戦においては、羽柴秀吉さん、後の豊臣秀吉さんが歴史的にも名のある方がやられたということで、歴史あるところというところでご認知されておるかと思っております。この峯城に関しては県の指定文化財に今現在なっております。

そこで、その史跡に関しての理解は十二分にあると思っております。保存と利活用についてはどう思われておるのか、市長にお聞きしたいと思います。

市長：この史跡はそれぞれの地域の歴史や文化を今に伝える貴重な遺産でございます。また、地域への愛着や誇りを育む根源ではないかと考えるものであります。

市長として保存と利活用についてどう思うのかということですが、先ほど申し上げたような考え方に基づいて、地域での保存活動等、あるいはその継承活動を頑張らせていただいております地域の皆様と協働させていただいて、史跡の保存と活用に一層努めてまいりたいと考えています。

高島：地元の人たちとともにということをお聞きしました。基本的に、私はこれを考える上で思いましたが、市長がいつも言われる亀山城ばかりでこっちを向いては何も言ってくれないと思っていました。その峯城に関しては三重県が発行している三重県のお城のベスト50というのにも、峯城と新所城と鹿伏兔城が入っています。

この9番目に峯城が紹介されておるということでございます。それで、地元の方と市長がやっていくということをお願いいたしましたので、この峯城の保存会の皆さんは、平成17年、条例が制定される以前からたび重なる整備要望を当時の所管である教育委員会には出してあります。市長が今言われた、地域とともに市も一緒にやっていくんやということ踏まえまして、文化局長はどう思われておるのか、一度お聞かせください。

文化局長：ご要望の内容でございますが、1点目として峯城周辺に駐車場を整備すること。2点目として史跡案内板の充実・整備。3点目として史跡内見学通路の整備についてでございます。峯城跡は三重県史跡にも指定されている市内では重要な遺跡であることは認識いたしておりますが、ご要望いただいた段階では、そうした史跡及び史跡周辺の整備を行うには史跡の保存状況、所有者との調整、具体的な整備計画の策定など、課題が多く、整備を行っていく段階ではないとの回答をさせていただいております。回答後、平成20年度には史跡全体の測量調査を国補助を得て行いましたほか、「秀吉が来た」のパンフレットを作成し、峯城跡も取り上げております。

高島：そのような回答が来るのかなあとはある程度予測をしておりました。基本的にパンフレットに書いてある、何をしたよと言いつつも見に行ってみると、本当にこれが城跡かなあと、看板1つ立って、これが地域の住民と一緒にやっていくと、今言われてこれからやっていくんやとは期待しますけれども、そういう観点で、思っています、やはり市としては史跡じゃなくて亀山城とか加藤家とか、建っておるものにしか興味を示さんのかと思っておりました。昨今歴史ブームというのが到来しまして、ある程度その辺のところも考えながらやってい

3月議会一般質問

てもらいたいと思います。整備についても、地元の人や保存会の人も行っていると思いますが、地元の人々の要望はまだ多々あるかと思っています。それを一度加味しながら、目に見える形で観光としてやってほしいと思っています。

次に、文化年で、僕は文化年のイベントを通じた文化の振興、いろいろそれで触れ合っているというのには理解しております

市長にお伺いします。乱暴な言い方をすれば、放ってあったんです。放ってあったと僕は思います。これからやっていくということですので、よろしいが、今後その文化遺産の発掘の考え方は、市長は建物ではなく、そういう史跡の文化は考えていなかったのかどうか、一度お伺いさせていただきたいと思います。

市長：決して峯城を横へ置いてきたということではなくて、やはり峯城を初め、先ほど申し上げた、さまざま地域にはすごい歴史資産が存在をしておるというふうに私自身考えております。

文化年における取り組みでは、今ご指摘のように、文化財を対象とした取り組みについても行ってまいりました。峯城自身を題材にということではございませんでしたが、今地域で保存会の皆さんや川崎地区のまちづくり協議会の皆さんがさまざまな動きをさせていただいておりますので、文化年とは別に後方支援をさせていただくという形で展開をして今日に至っておるところで

あります。

したがって、峯城についてさらに亀山市民の皆様方の理解を深め、またさらにこれが次へ展開がなされていくような取り組みにつきましても、市としましても今後もしっかり考えてまいりたいと思いますし、他の文化財等へも広めていければというふうに考えておるものでございます。

高島：基本的にその過程において、文化局長に聞いたのですが、いつも何かそうすると、実行委員会の決定でと言われます。文化局長としては、今後、取り組んでいく意思はあるのかということだけ確認させてください。

文化局長：峯城跡は戦国時代から近世にかけての城郭の状況が良好に残されており、本市の重要な遺跡であると認識しておりますので、地域の皆様とともにこういった遺跡の保存活用に努めてまいりたいというふうに考えております。

高島：市長にお聞きします。

そういうところで、基本的に峯城というのは文化価値があるし、歴史的にも、僕は、歴史に残るような合戦があったということは市長も理解して頂いていると思います。市の財産、地域の財産、住民の財産としてやっていくためには、周辺整備というのは避けては通れないと思います。そこで、用地も協力して頂いている市民の方もみえますので、話し合って、そういう整備に今後取り組んでいくという気はないのかどうか、

お聞かせ願いたいと思います。

市長：この県史跡峯城が持つ歴史的、文化価値は極めて高いというふうに考えてございます。

ただ、その史跡の整備ということにつきましては、土地の所有者、特に峯城の跡地につきましては民地でございますので、所有者、それから近隣にお住まいの皆様、それから管理等を頑張らせていただいております皆様などと、この将来像を共有しながら進めていく必要があるというふうに考えてございます。

議員のご提案も踏まえ、今後峯城跡の将来像につきましては、こうした活動の成果

教育行政について

なども含めて今後考えてまいりたいと、現時点で考えておるものであります。

高島：教育長は12月の定例議会で全会一致とは言わずとも多数の賛同を受けてなられたと思います。その新任期に当たって、教育長の仕事というのは多岐多様にわたると思います。こういうのに力を入れてやっていくんだと思いますので、ぜひお聞かせ願いたいと思います。

教育長：改めまして、教育長としての職責の重さに身を引き締めるとともに、職務を全うできますよう全力を尽くす覚悟でございます。私といたしましては教育委員会事務局の責任者として、「ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う人づくり」を念頭に置き、希望に輝く心豊かな亀山の子供たちの育成を目指してまいります。教育環境の整備につきましては、子供たちの安心・安

全で快適な環境づくりを目指し、学校における学習環境、市立図書館などの施設整備のほか、児童・生徒の通学路や子供たちにかかわるさまざまな環境の整備につきまして、関係機関との協力をしながら進めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

高島：通り一辺倒な答弁でしたが、僕は基本的に、その学力とかああいうのは当然のことやと思っております。そこの中での言葉を引き出したかったのは、通学路のことで、最後にほんの何秒かぐらい触れていただきました。基本的に学力向上でも何でもおっしゃるとおりやと思います。学力向上するためには学校に行かなければならないので、そこの中での通学路のことというのは重要に私は思います。

そこで、いま一度だけ、もう一回だけ聞きたいと思います。通学路に関してはやっていくんだという意気込みはあるのかないのかだけ聞かせてください。

教育長：子供たちの安心・安全な環境づくりの中には、児童・生徒の安全な通学路の確保も当然のことながら含めておるところでございます。議員からもこれまで通学路に関しまして、さまざまなご指摘をいただいております。今後も関係機関に積極的に働きかけながら、児童・生徒の安全な通学路の確保に努めてまいりたいと思っております。

高島：もうそれを言われたら、もうやってください。

それと史跡の周辺整備も地域とやっていくということなので、気のきいた返事をいただきましたので、これで終わります。